

2010.11.13. 子どもの貧困解決元年 2010 国際シンポジウム
独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業

イギリスに学ぶ子どもの貧困解決

日本の子どもの貧困解決スタートへ

主催：「なくそう！子どもの貧困」全国ネットワーク
後援：内閣府子ども若者・子育て施策総合推進室
厚生労働省
立教大学コミュニティ福祉研究所

日時 ● 2010年11月13日(土) 13:00~17:00

場所 ● 立教大学 池袋キャンパス 8号館 8202 教室

プログラム

開会あいさつ／総合司会：湯澤直美

第1部 ● 講演 ● イギリスは子どもの貧困にどのように取り組んでいるのか

フラン・ベネット「子どもの貧困アクショングループ」元代表

オックスフォード大学教授

(日本語通訳／山之内悦子、西岡千恵子)

第2部 ● シンポジウム ● イギリスの多様なとりくみに学ぶ

コーディネーター：中嶋哲彦

・イギリスの子どもの貧困対策に学ぶ——日本弁護士連合会調査から

岩重佳治（弁護士・日本弁護士連合会「貧困問題対策本部」委員）

・シュア・スタートとイギリスの乳幼児・家族支援

埋橋玲子（同志社女子大学現代社会学部教授）

・イギリスの子どもの貧困法について

中嶋哲彦（名古屋大学大学院教授）

・質疑とまとめ

● ネットワークの今後の活動について／閉会

プロフィール

フラン・ベネット ● *Fran Bennett*

1960年代からイギリスで子どもの貧困問題に取り組んできた「子どもの貧困アクショングループ (Child Poverty Action Group : CPAG)」の元代表。オックスフォード大学教授。専門は、社会保障政策、ジェンダー、貧困問題。

「子どもの貧困アクショングループ」は、イギリスを代表する民間福祉団体で、その活動は、子どもの貧困に関する啓発活動や調査研究、ロビー活動にとどまらず、子どもや家族をめぐる手当についての専門相談に応じるなど幅の広さが特徴。

岩重佳治 ● *Iwashige Yoshiharu*

1997年(平成9年)弁護士登録。東京弁護士会所属。日本弁護士連合会「貧困問題対策本部」委員。

多重債務問題・消費者問題を中心に活動を続けてきた。その背景に貧困があることから、貧困問題への取り組みを開始し、現在に至る。

独立行政法人国民生活センター客員講師、獨協大学非常勤講師、さいたま市消費生活審議会委員、(財)消費者教育支援センター評議員。

埋橋玲子 ● *Uzhashi Reiko*

同志社女子大学現代社会学部教授。専門は保育の国際比較および保育評価。

主著『チャイルドケア・チャレンジ——イギリスからの教訓』(法律文化社、2007年)、訳書に『保育環境評価スケール①幼児版』『同②乳児版』(ともに、テルマ・ハームス他著、法律文化社、2004年)、近著「子どもの居場所」『イギリスにおける家族政策とワーク・ライフ・バランス推進に関する調査研究報告書』第1章(こども未来財団、2010年)。共著に『世界の幼児教育・保育改革と学力』(明石書店、2008年)。

中嶋哲彦 ● *Nakajima Tetsuhiko*

名古屋大学大学院教授。専門は、教育法学、教育行政学。

中部教育学会会長、全国大学高専教職員組合中央執行委員長、「なくそう！子どもの貧困」全国ネットワーク世話人。

共著に『全国学力テスト、参加しません。——犬山市教育委員会の選択』(明石書店、2007年)、「学力テスト体制と格差・貧困問題」『子どもの貧困白書』(明石書店、2009年)。

関連論文に「イギリスの子ども貧困法案に学ぶ」『教育』2010年7月号、国土社。